

CEL英語ソリューションズ

Grammar Reference

HANDBOOK

グラマーリファレンスハンドブック

DEMO
抜粋版



まえがき

【本書の目的】

Grammar Reference HANDBOOK はあらゆるレベルの英語学習者が適宜文法に関する項目を確認・復習できるように作られたものです。よって本書は、文法書というより、文法項目参照辞典という性質があります。

【本書の特徴】

英語の実際の運用を念頭に置き、英文の理解や作成に必要な最低限かつ不可欠な文法規則を網羅しました。

基本的に文法項目と語法項目を意識して分別し、本書の解説は文法項目のみに絞りこみました。

一般に通用する文法規則を優先し、例外や特殊用法などは扱っておりません。

一部、他の文法書や辞書など見解が異なる部分があるかもしれませんが、学習者の混乱を避けるため異説は紹介しておりません。

英文を構成する要素が持つ機能を重視し、品詞を中心に、主述関係、修飾・被修飾関係を明確にする点を重視しました。

各項目の解釈が実例に基づいて行われるように、全ての説明に例文を掲載しました。

例文はできる限り簡潔な文を選び、説明のポイントとなる部分を太字・斜体・太字斜体などで明示しました。

巻末に索引を載せ、必要に応じて適宜、文法項目を参照できるようにしました。

【本書の使い方】

読本として通読してください。

英文読解や英作文などの学習時に、文法的に理解が不十分と思われる項目について確認してください。

目次

Chapter 1	重要な品詞	6
	句と節	6
	(1) 句	6
	(2) 節	7
Chapter 2	文	8
	(1) 単文	8
	(2) 重文	8
	(3) 複文	8
	文の種類	8
	(1) 平叙文	8
	(2) 疑問文	9
	(3) 感嘆文	9
Chapter 3	文の構成	10
	(1) 5 文型	10
	(2) 能動態と受動態	10
	(3) 動詞句の意味と文型	11
Chapter 4	準動詞	12
	(1) 動名詞	12
	(2) 分詞	12
	(3) to- 不定詞	14
	(4) 原形不定詞	15
Chapter 5	接続詞	16
	(1) 等位接続詞	16
	(2) 従属接続詞	16
Chapter 6	分詞構文	18
	(1) 現在分詞の分詞構文	18
	(2) 過去分詞の分詞構文	18
	(3) being の省略	18
	(4) 独立分詞構文	19
	(5) 付帯状況を表す with	19

Chapter 7	関係詞節	20
	(1) 関係代名詞	20
	(2) 前置詞 + 関係代名詞	21
	(3) 関係副詞	22
	(4) 先行詞を含む関係詞	22
	(5) 所有格の関係代名詞	23
	(6) 接続詞の that と関係代名詞の that 区別	24
	(7) 制限用法と非制限用法	24
	(8) 関係代名詞の直後に見られる節の挿入	25
Chapter 8	疑問詞と関係詞	26
	(1) 疑問詞	26
	(2) 関係詞との差	28
	(3) 接続詞との差	29
	(4) 強調の疑問詞、強調の関係詞、強調の接続詞	29
Chapter 9	よく用いられる構文	30
	(1) 仮主語・仮目的語構文	30
	(2) there is ~ 構文	30
	(3) 強調構文	31
	(4) 比較構文	32
Chapter 10	時 制	34
	(1) 時制の種類	34
	(2) 時制の一致	36
	(3) 時制の注意事項	36
	(4) 準動詞の過去時制	37
Chapter 11	倒置・挿入・省略	38
	(1) 規則としての倒置	38
	(2) リズムや強調の倒置	38
	(3) 挿入	39
	(4) 省略	40
Chapter 12	動詞の法	42
	(1) 命令法	42
	(2) 仮定法	42
Index	索 引	44

CHAPTER 1

重要な品詞 / 句と節

1 - 1. 重要な品詞

語の持つ役割を品詞で呼び分けます。品詞を意識しておく必要性が高いものは、動詞、名詞、形容詞、副詞の4つです。文を成立させるには「主語+動詞」が必要であるため、名詞と動詞は必須要素となります。さらに文の内容を充実させるために修飾語の形容詞、副詞が用いられます。

(ex.1) I found a very beautiful picture.

《名詞》《動詞》 《副詞》 《形容詞》 《名詞》

動詞は文の中核となり、主語や目的語や補語を伴います。

名詞は、主語や目的語や補語になります。

形容詞は、名詞を修飾し、補語にもなります。

副詞は、動詞、形容詞、他の副詞、文や節を修飾し、補語にもなります。

1 - 2. 句と節

2つ以上の語が集まって意味上の1単位を成している語群の中で、「主語+動詞」の形式を備えていないものを句といい、「主語+動詞」の形式を備えているものを節といいます。

(1) 句

句には動詞、名詞、形容詞、副詞に相当するものがあります。

(a) 動詞句

句全体で1つの動詞の単位を作ります。

(ex.1) I *am interested in* music.

「私は音楽に興味がある。」

(ex.2) I always *took care of* my sister.

「自分はいつも妹の面倒を見ていた。」

(b) 名詞句

句全体で1つの名詞の単位を作ります。

(ex.3) *Climate change* is a global issue.

「気候の変化は世界規模の問題である。」

(c) 形容詞句

句全体で名詞(句)を修飾します。

(ex.4) What is the difference *between culture and civilization*?

「文化と文明はどこがちがうのだろう。」

前置詞 + 名詞(句)の形で直前の名詞を修飾しています。被修飾語の the difference まで含めると1つの大きな名詞句になります。

(ex.5) I know *many* people *enthusiastic about dance*.

「ダンスに夢中な多くの人たちを知っている。」

manyのように形容詞1語の場合は通常名詞(句)の前に置きますが、enthusiastic about danceのように句を作ると名詞(句)の後ろに置きます。

(d) 副詞句

動詞(句)、形容詞(句)、他の副詞(句)、文や節を修飾します。

(ex.6) Our plane delayed *for four hours due to the storm*.

「私たちの飛行機は嵐のため4時間遅れた。」

delayを修飾する for four hours と due to the stormの2つの副詞句があります。多くの副詞句は for four hoursのように前置詞 + 名詞(句)の形です。

(ex.7) *Strangely enough*, he didn't come *despite his promise to do so*.

「意外なことに、来ると約束したにもかかわらず、彼は来なかった。」

strangely enoughは文全体を修飾する副詞句です。文末の despite his promise to do soはdidn't comeという動詞句を修飾する副詞句です。

(2) 節

節には名詞、形容詞、副詞に相当するものがあります。いずれに相当するかは節が文中で果たす役割や被修飾の語句・節から判断できます。

(a) 名詞節

(ex.8) *That he is honest and diligent* is well known.

「彼が正直で勤勉であることは良く知られている。」

that he is honest and diligentは主語になっていますから名詞に相当します。

(b) 形容詞節

(ex.9) She is the lady *who helped us the other day*.

「彼女は先日私たちの手伝いをしてくれた女性だ。」

who helped us the other dayは名詞の the ladyを修飾していますから形容詞に相当します。

(c) 副詞節

(ex.10) *When he arrived in Tokyo*, it was raining.

「彼が東京に着いたときには、雨が降っていた。」

when he arrived in Tokyoは主節を修飾していますから副詞に相当します。

CHAPTER 2

文／文の種類

2 - 1. 文

文には1つの節から成るものと、複数の節から成るものがあります。

(1) 単文

1つの節から成っています。

(ex.1) He studied hard.

「彼は懸命に勉強した。」

(2) 重文

2つ以上の対等な節(等位節 = 等位接続詞で結ばれたもの)から成っています。

(ex.2) This book is expensive, *but* it is quite useful.

「この本は高価だが、とても有用である。」

(3) 複文

名詞節、形容詞節、副詞節などの従属節を含んでいます。

(ex.3) *That he is honest and diligent* is well known. 《名詞節》

「彼が正直で勤勉であることは良く知られている。」

(ex.4) She is the lady *who helped us the other day*. 《形容詞節》

「彼女は先日私たちの手伝いをしてくれた女性だ。」

(ex.5) *When he arrived in Tokyo*, it was raining. 《副詞節》

「彼が東京に着いたときには、雨が降っていた。」

2 - 2. 文の種類

文の種類には次のようなものがあります。

(1) 平叙文

S+V の語順を取り、ピリオドをつけます。

- (ex.1) He likes to read books.
「彼は読書が好きだ。」

(2) 疑問文

V+S あるいは助動詞+S+V の語順を取り、疑問符をつけます。

- (ex.2) Do you like this book?
「この本は好きですか。」
- (ex.3) What music do you like?
「どんな音楽が好きですか。」

(3) 感嘆文

how や what の感嘆詞を用いて感嘆を表す文です。感嘆符をつけます。次の(ex.4)と(ex.5)の平叙文を感嘆文に変えてみます。

- (ex.4) The picture is beautiful. / She runs fast. 《平叙文》
「この写真は美しい。」 / 「彼女は走るのが速い。」
形容詞の beautiful や副詞の fast について感嘆する場合は how を用います。

- (ex.5) It is a beautiful picture. / She is a fast runner. 《平叙文》
「それは美しい写真だ。」 / 「彼女は速い走者だ。」
名詞句の a beautiful picture や a fast runner について感嘆する場合は what を用います。

how の後には形容詞や副詞を持ってきます。

- (ex.4-2) **How** beautiful *the picture is!* 《感嘆文》
「この写真は何と美しいのだろう。」
- (ex.4-3) **How** fast *she runs!* 《感嘆文》
「彼女は何と速く走るのだろう。」

what の後には名詞(句)を持ってきます。

- (ex.5-2) **What** a beautiful picture *it is!* 《感嘆文》
「それは何と美しい写真だろう。」
- (ex.5-3) **What** a fast runner *she is!* 《感嘆文》
「彼女は何と速い走者なのだろう。」

3. 文の構成

文の構成を確認する方法として、動詞の用法で構文を大別できます。

(1) 5 文型

(a) 第 1 文型: 主語[S]と動詞[V]のみで文が完結する。

(完全)自動詞(SV)

(ex.1) He *died*.

「彼は死んだ。」

(b) 第 2 文型: 主語[S]の内容を補完する語(補語[C])を必要とする。

(不完全)自動詞(SVC)

(ex.2) He *became* a doctor.

「彼は医者になった。」

(c) 第 3 文型: 目的語[O]を必要とする。

(完全)他動詞(SVO)

(ex.3) He *annoyed* me.

「彼は私を悩ませた。」

(d) 第 4 文型: 目的語[O]を 2 つ取る。

(完全)他動詞(SVO₁O₂)

(ex.4) He *gave* me the book.

「彼は私にその本をくれた。」

この型の動詞の多くは SVO₂ to O₁ に変形できます。

(ex.4-2) He *gave* the book to me.

(e) 第 5 文型: 目的語[O]の内容を補完する語(補語[C])を必要とする。

(不完全)他動詞(SVOC)

(ex.5) He *made* her sad.

「彼は彼女を悲しませた。」

(2) 能動態と受動態

(c)、(d)、(e)に見られる他動詞を用いた文は受動態にできます。受動態は《be 動詞 + 過去分詞》の形で作ることができます。

(ex.3-2) I *was annoyed* (by him). 《(c)の受動態》

「私は(彼から)悩まされた。」

(ex.4-3) I *was given* the book (by him). 《(d)の受動態》

「私は(彼から)その本を与えられた。」

(ex.4-4) The book *was given* to me (by him). 《(d)の変形の受動態》

「その本は(彼から)私に与えられた。」

(ex.5-2) She *was made* sad (by him). 《(e)の受動態》

「彼女は(彼から)悲しませられた。」

(3) 動詞句の意味と文型

動詞が句の形を取る場合、あるいは複文として従属節を含む場合、無理に5文型で分類するよりも意味の理解を優先しましょう。

(ex.6) He *spoke to* me. 《機能的には第3文型》

「彼は私に話し掛けた。」

本来第1文型ですが、speak to で他動詞句と考えた方が合理的です。第3文型のSVOの形に近く、受動態が考えられます。

(ex.6-2) I *was spoken to* (by him).

「私は(彼から)話し掛けられた。」

(ex.7) He *provided* his students *with* textbooks. 《機能的には第4文型》

「彼は自分の生徒に教科書を与えた。」

本来第3文型ですが、provide O1 with O2 で他動詞句と考えた方が合理的です。第4文型のSVO₁O₂の形に近く、SVO₂ to O₁の形が可能です。

(ex.7-2) He *provided* textbooks *to* his students.

それぞれ受動態が考えられます。

(ex.7-3) His students *were provided with* textbooks (by him).

「彼の生徒は(彼から)教科書を与えられた。」

(ex.7-4) Textbooks *were provided to* his students (by him).

「教科書が(彼から)彼の生徒に与えられた。」

(ex.8) He *prevented* me *from* going there. 《機能的には第5文型》

「彼は私がそこへ行くのを阻止した。」

本来第3文型ですが、prevent O from doing で他動詞句と考えた方が合理的です。第5文型のSVOCの形に近く、受動態が考えられます。

(ex.8-2) I *was prevented from* going there (by him).

「私は(彼から)そこへ行くのを阻止された。」

5文型は主語と動詞に続く語の関係、目的語と目的語に続く語の関係によって動詞を分類したものです。大切なのはその関係が理解できることであり、分類することではありません。文法上どの文型に属するかはさておいて、provideにおけるO₁とO₂の関係、preventにおけるOとdoingの関係を理解することを優先しましょう。

4. 準動詞

動詞を変形させて動詞以外の品詞を持つ語(句)として使うことができます。このような変形した動詞を準動詞といいます。

(1) 動名詞

~ ing 形にして名詞の役割を持たせます。元の動詞の性質があるため不完全自動詞は補語を、他動詞は目的語を伴うことができます。

(ex.1) She fought against *becoming* old. 《補語を伴う動名詞》

「彼女は歳を取ることと闘った。」

(ex.2) *Watching* TV made me bored. 《目的語を伴う動名詞》

「テレビを見るのは私を退屈させた。」

動名詞に定冠詞を付けると名詞としての性質が強くなり、目的語の前に of が必要になります。

(ex.3) *Burning* fossil fuels contributes to global warming.

(ex.3-2) *The burning* of fossil fuels contributes to global warming.

「化石燃料の燃焼は地球温暖化に寄与する。」

この場合、of fossil fuels は the burning を修飾する形容詞句と考えると結構です。

動名詞の動作主は所有格で表します。

(ex.4) *His speaking* was unclear.

「彼の話し方は不明瞭だった。」

(2) 分詞

分詞の形にして形容詞の役割を持たせます。分詞1語であれば名詞の前から、句を作れば名詞の後ろから修飾します。

(a) 現在分詞

元の動詞の性質があるため不完全自動詞は補語を、他動詞は目的語を伴うことができます。

(ex.5) a *crying* girl

「泣いている少女」

(ex.6) an issue *becoming* increasingly important 《補語を伴う現在分詞》

「ますます重要になってきている問題」

- (ex.7) a man **watching** television 《目的語を伴う現在分詞》
 「テレビを見ている男性」
 現在分詞の場合、いずれも被修飾語の名詞が分詞の意味上の主語になる
 能動態の意味を出します。

(b) 過去分詞

- (ex.8) a **broken** window > **break** a window
 「割られた窓」>「窓を割る」
- (ex.9) a treasure **found** by researchers > Researchers **found** a treasure.
 「研究者たちによって発見された宝」>「研究者たちは宝を発見した。」
 過去分詞の場合、いずれも被修飾語の名詞が分詞の意味上の目的語になる
 ため、受動態の意味を出します。

分詞形容詞句として名詞を後ろから修飾している場合、関係代名詞の
 修飾方法によく似ています。

- (ex.6-2) an issue **that is becoming** increasingly important
 「ますます重要になってきている問題」
- (ex.7-2) a man **who is watching** television
 「テレビを見ている男性」
- (ex.9-2) a treasure **that was found** by researchers
 「研究者たちによって発見された宝」
 分詞による名詞(句)の修飾方法は、感覚的には関係詞節の「関係代名詞
 +be動詞」が省略されたものと考えても結構でしょう。

動名詞と現在分詞は性質が似ており、明確に区別できないときもあり
 ます。

- (ex.10) *His speaking* was unclear. 《動名詞》
 「彼の話し方は不明瞭だった。」
 所有格代名詞を伴う(ex.10)は動名詞です。しかし、分詞と区別しにくい
 場合は(ex.12)のように所有格代名詞を用いない場合も多く出てきます。
- (ex.11) I heard *his coming*. 《coming は動名詞：SVO》
- (ex.12) I heard *him coming*. 《coming は現在分詞：SVOC》
 「彼が来ると聞いた。」
 どちらの形もよく見られます。(ex.11)はhearの目的語がcomingでSVO
 型、(ex.12)はhearの目的語がhimでcomingが目的語の補語となるSVOC
 型になりますが意味はほぼ同じです。さらに、動詞の後に代名詞以外の語
 が来る場合、所有格を用いるのは稀で、区別できなくなります。
- (ex.13) I heard *Tom coming*.
 「トムが来ると聞いた。」

動名詞は節を句に変換する場合に便利です。

(ex.14) I will tell you *the story that a poor man becomes rich.*

「貧しい男が金持ちになる話を君に聞かせてあげよう。」

(ex.14-2) I will tell you *the story of a poor man becoming rich.*

この場合も *becoming* は動名詞か現在分詞か明確ではありません。したがって、*a poor man* の部分に代名詞を用いる場合、*his becoming rich* の例と *him becoming rich* の例のどちらも散見されます。

(3) to- 不定詞

原形動詞に *to* を付けたものを指しますが、名詞、形容詞、副詞の用法があります。

(a) 名詞用法

(ex.15) *To see is to believe.* 《主語や補語》

「百聞は一見に如かず。」

(ex.16) I want *to buy the book.* 《目的語》

「私はその本を買いたい。」

(b) 形容詞用法

(ex.17) a plan *to make money* 《名詞を修飾》

「金を儲けるための計画」

(ex.18) a place *to visit* 《名詞を修飾》

「訪れる(べき)場所」

visit は他動詞ですが、この場合、「*visit* するための a place」という意味で、a place は *visit* の目的語になります。留意しておきましょう。

(c) 副詞用法

(ex.19) He visited me *to ask some questions.* 《動詞を修飾》

「彼はいくつか質問をするために私を訪ねてきた。」

visit という動詞を修飾する副詞句です。

(d) あいまいな用法

どの用法にあたるか不明確なものもあります。

(ex.20) He wrote a book *to make money.*

この場合、「金を儲けるための本を彼が書いた (a book を修飾する形容詞用法) のか、「金を儲けるために、彼は本を書いた (wrote を修飾する副詞用法) のか不明確です。どちらの用法かを判断するより、文脈上どちらの意味になるべきかを優先しましょう。

目的語にto-不定詞が続く場合、動詞の性質によってto-不定詞の意味上の主語が異なりますので注意しましょう。

(ex.21) He visited me **to ask some questions**.

「彼はいくつか質問をするために私を訪ねてきた。」

(ex.22) He wanted me **to ask some questions**.

「彼は私にいくつか質問をして欲しかった。」

前者の文ではaskする人物はheであり、後者の文ではaskする人物がmeです。形よりも意味を優先する必要があります。

(4) 原形不定詞

動詞には目的語や目的格補語に原形不定詞を取るものがあります。動詞との区別が必要です。特に後者は使役用法の動詞に多く見られます。

(ex.23) He **helped** (to) *do the dishes*. 《目的語が原形不定詞》

「彼は皿洗いを手伝った。」

helpはやや特殊で、toが慣用的に省略される場合がよく見られます。また、help + 目的語 + (to) doの形でもtoが省略される例がよく見られます。

(ex.24) He **made** [*let*] her *go*. 《目的格補語が原形不定詞》

「彼は彼女を去らせた。」

make や let を用いた使役用法と呼ばれるものです。

(ex.24-2) She **was made** to go (by him). 《make の使役用法の受動態》

(ex.24-3) She **was let** go (by him). 《let の使役用法の受動態》

「彼女は(彼から)去らせられた。」

使役用法のmakeを受動態で用いる場合、原形不定詞ではなくto-不定詞を用いる点に注意してください。一方、letは受動態で用いても原形不定詞を用います。これらは語法として個別に対応する必要があります。

使役用法で注意が必要なのはhaveとgetの用法の差です。haveは原形不定詞、getはto-不定詞を補語に取ります。特に、目的語と補語の意味の関係に注意しましょう。

(ex.25) He **had** her go. / He **got** her to go. 《補語が原形不定詞 / to-不定詞》

「彼は彼女を行かせた。」

この場合はOとCの関係が能動態になっています。

(ex.26) He **had** his house *painted*. / He **got** his house *painted*. 《補語が過去分詞》

「彼は自分の家に彩色してもらった。」

この場合はOとCの関係が受動態になっています(つまり、His house was painted. の意味)。この場合、haveもgetもCに過去分詞を用います。

サンプルのため

.....

中略

.....

させていただきます。

ご了承くださいませ。

サンプルのため

.....

中略

.....

させていただきます。

ご了承くださいませ。

索引

カ

過去完了形	35
過去完了進行形	35
過去形	34
過去進行形	34
過去分詞	13
仮定法	42
仮定法過去	42
仮定法過去完了	43
仮定法の but for	43
仮定法未来	42
仮主語	30
仮目的語	30
関係詞節	20
関係代名詞	20
関係副詞	22
間接疑問文	17, 27
(完全)自動詞	10
(完全)他動詞	10
感嘆詞	9
感嘆符	9
感嘆文	9
完了形の注意点	37

キ

疑問詞	17, 26
疑問代名詞	26
疑問符	9
疑問副詞	26
疑問文	9
強調構文	31
強調の関係詞	29
強調の疑問詞	29
強調の接続詞	29
近接未来を表す be going to do	36

ク

句	6
節を句に変換	14

ケ

形容詞	6
形容詞句	7
形容詞節	7
原形不定詞	15
現在完了形	35
現在完了進行形	35
現在形	34
現在進行形	34
現在分詞	12

コ

5文型	10
-----	----

シ

使役動詞	15
使役用法	15
時制	34
時制の一致	36
従属節	8
従属接続詞	16
重文	8
受動態	10
準動詞	12
準動詞の過去時制	37
省略	40
所有格の関係代名詞	23

セ

there is ~ 構文	30
制限用法	24
節	6

- 接続詞 16
 接続詞の that と関係代名詞の that 24
 先行詞 20
 先行詞を含む関係詞 22
 前置詞 + 関係代名詞 21
- ソ**
- 挿入 25, 39, 40
- タ**
- 代名詞 20
 単文 8
- チ**
- 直説法 42
- ト**
- 等位節 8
 等位接続詞 8, 16
 動詞 6
 動詞句 6
 動詞の省略 40
 動詞の法 42
 倒置 38
 動名詞 12
 動名詞と現在分詞 13
 to-不定詞 14
 時・条件を表す副詞節 37
 独立分詞構文 19
- ノ**
- 能動態 10
- ヒ**
- 比較構文 32
 比較構文に多い省略 41
 非制限用法 24
- フ**
- (不完全)自動詞 10
 (不完全)他動詞 10
 副詞 6
 副詞句 7
 副詞節 7
 副詞節における S+V の省略 41
 複文 8
 付帯状況を表す with 19
 分詞 12
 分詞形容詞句 13
 分詞構文 18
- ヘ**
- 平叙文 9
- ホ**
- 補語 10
- ミ**
- 未来完了進行形 35
 未来形 34
 未来完了形 35
 未来進行形 34
- メ**
- 名詞 6
 名詞句 6
 名詞節 7
 命令法 42



〒 169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-14-5 サンエスビル 2F

TEL 03-5291-1820 FAX 03-5291-1821

<http://www.cel-eigo.com>